

令和 2 年 5 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03393

研究課題名(和文) 現代英語圏文学におけるモダニズムの遺産継承に関する包括的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Studies of the Legacy of Modernism in Contemporary Literature in English

研究代表者

田尻 芳樹 (TAJIRI, YOSHIKI)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：20251746

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,130,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、20世紀前半の英語圏モダニズム文学の遺産がどのように現代英語圏文学に継承されているかを探究するため、メンバー同士で研究を重ねるだけでなく、Rebecca Walkowitz, Mark McGurl, Derek Attridgeといった、当該分野の世界的権威を招聘し、交流を行った。最大の成果は、2019年9月に青山学院大学で3日間に及ぶ国際モダニズム学会(Modernism Studies in Asia 2)を主催し成功を収めたことにある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

海外の最先端の研究者を招聘して交流し、また大規模な国際学会を主催することで、20世紀前半の英語圏モダニズム文学及び現代英語圏文学の研究を深めることができたばかりでなく、日本の研究水準を海外に知らせることもできたという意義がある。とりわけ2019年9月に主催した国際モダニズム学会においては若手研究者同士の交流も盛んに行われ、これからのこの分野の研究における国際的連携の基礎を築くことができたことも意義深い。

研究成果の概要(英文)：In order to explore how the legacy of modernist literature in English in the early twentieth century was inherited by contemporary literature in English, we not only worked among ourselves but also invited world authorities on this field such as Rebecca Walkowitz, Mark McGurl and Derek Attridge and had fruitful interactions with them. The biggest achievement was our successful hosting of the three-day international conference on modernism (Modernist Studies in Asia 2) that took place in Aoyama-Gakuin University in September 2019.

研究分野：人文学

キーワード：モダニズム 英語圏文学 遺産継承

1. 研究開始当初の背景

本研究では、(1)モダニズム研究隆盛、(2)モダニズムそのものの時間的・空間的拡大、という近年顕著な二つの現象がもたらしている「モダニズム」概念の流動化をふまえて、21世紀の現代における、モダニズムとの新たなタイプのかかわり方に焦点を合わせる。例えば Laura Marcus や David James は近年、20世紀後半から現代にかけての英語圏文学を対象に、20世紀前半のモダニズムの「遺産」の「継承」を問題化している。現代英語圏文学においては、しばしば、Woolf、Joyce、Henry James などモダニストたちの技法的革新や戦間期の歴史的状況を明示的／暗示的主題としつつ、新しい時代状況にも機敏に応答する作家たち（たとえば J.M.Coetzee, Ian McEwan, Zadie Smith など）の活躍が目立ってきている。それらの作家たちに新たに「メタモダニズム」という用語が当てはめられることもある。

こうした状況を踏まえつつ本研究が遂行する「モダニズムの遺産継承」研究の内実とは、「モダニズム」の時間・空間的拡大という現代の研究動向を追認しつつ、なおその中に複数のモダニズムを見ること、さらにそれらとの間の複雑な対話・交渉・継承関係が織りなす現代英語圏文学の現状を仔細に検討することである。さらに、それは、ここしばらく活況に沸いているモダニズム研究の現代的意義についても反省的に考えることにもつながる。というのも、モダニズムの達成と限界からなんらかの教訓を学び取り、その核心的可能性を「継承」することを企図しているという点では、現代の創作と研究・教育は密接不可分であるに違いないからである。

以上の問題意識を背景に、本研究は、モダニズムをさまざまな方法で省察し、継承しようと試みている現代英語圏文学を検討する。

2. 研究の目的

本研究は、英文学研究で昨今隆盛を極めている「モダニズム(Modernism)」(ここでは20世紀前半の英語圏のモダニズム文学を主に指す)研究を歴史的に反省することから出発し、今日研究者のみならず現代英語圏の作家たちが共有している、モダニズムの現代における遺産継承という問題に焦点を合わせる。そして、その問題を、時代横断的継承(時間軸)、地政学的展開(空間軸)、継承の制度的保証としての大学創作科という三つの観点から包括的に分析することを志す。本研究は、現代英語圏の作家を読解する新たな解読格子を練り上げながら、モダニズムと現代の関係を再検討し、さらにはモダニズム研究と文学教育それ自体をも新たに捉え直すことを企図している。

3. 研究の方法

以下の3つの視点を軸に、海外の研究者たちとも連携しながら研究を遂行する。

(1)「モダニズム」の時代横断的継承(時間軸の観点)

現代英語圏文学におけるモダニズムの再浮上を論じるための予備作業として、「モダニズム」およびその関連概念の文学史的な再検証を行うとともに、現代英語圏文学で本研究に関連する作家たちを選び出し、それぞれのモダニズムとのかかわりを明確化する。

(2) 「モダニズム」の地政学的再検討（空間軸の観点）

モダニズムは、植民地主義や帝国主義の（きわめて両義的な）遺産と不即不離の関係にあった。この歴史的な文脈を踏まえ、従来はポストコロニアリズムの文脈で読まれることの多かった J. M. Coetzee や、Zadie Smith, Kazuo Ishiguro といった移民の出自を持っていてもポストコロニアルの枠組みには収まりきれない作家たちが、いかなる意味でモダニズムのトランスナショナルな継承者と位置づけうるかを明らかにする。

(3) 英語と制度（創作科）の問題（表現言語と教育の観点）

上記の時間軸と空間軸のみならず、アカデミズムと現代文学生産が相互に依存する状況を射程に入れ、とりわけ、アメリカで 1930 年代に創設された creative writing program（創作科）の教授哲学がいかにモダニズムの創作哲学を援用し制度化してきたかを明らかにする。また、わずか 80 年ほどで創作科が全世界の英語圏に拡散し、多文化化してきた過程を検証することで、「モダニズム」の時空間的継承に高等教育が果たしてきた役割を明確にする。

4. 研究成果

(1) 最大の研究成果は、最終年度である 2019 年の 9 月に、分担者である秦の勤務先、青山学院大学で、三日間に及ぶ大規模な国際モダニズム学会 Modernism Studies in Asia 2 を主催し、成功を収めたことである。これは英米に偏りがちな英語圏モダニズム研究をアジアからの視点を入れて多様化を図る学会で、前年は香港で開かれていたものを東京で行ったものである。Laura Marcus (Oxford 大学), Douglas Mao (Johns Hopkins 大学), Aaron Gerow (Yale 大学) といったモダニズム研究の世界的権威を基調講演者として招聘し、主催校責任者の秦だけでなく本科研メンバー全員が、青山学院大学文学部などの協賛を仰ぎながら、主体的に企画し、運営した。総合テーマは 'Modernism and Multiple Temporalities' として時間軸を代表させたが、100 に近い研究発表（もちろん欧米だけでなく、中国、台湾、韓国などアジア諸国からの参加者も目立った）ではモダニズムと現代文学の関係に関して多様で新鮮な見解が披露され、また活発な議論を誘発した。

この学会を成功させたことの意義は測り知れない。モダニズム文学関連でこれほど大規模な学会が日本で主催されたことはおそらくこれまでにない。英米の研究者たちに日本、アジアの研究水準を知らしめたばかりでなく、学会の一つの特徴であるアジアの視点からモダニズムを読み直すという試みは、まさに本研究の中心的な要素である、時間軸及び空間軸からのモダニズムの再検討という作業そのものを展開するものであった。それを世界の研究の最先端に位置するヴェテラン、若手の研究者たちと行えることができたのは、大きな成果であった。とりわけ、日本の若手研究者が、欧米、アジアの研究者と交流する機会を持てたことは、これからの英文学研究の国際的連携の基礎を築いたという意義も持っている。

(2) 本科研メンバー全員で、2018 年 5 月の日本英文学会第 90 回全国大会（東京女子大学）における「モダニズムの現代性 空間、情動、メディア・テクノロジー」と題するシン

ポジウムを組織し英米モダニズム再評価を行った。司会者、発表者の秦は Wyndham Lewis と Charlie Chaplin、佐藤は Graham Greene と映画、田尻は Virginia Woolf と小津安二郎、吉田はアメリカのノワール小説について発表し、モダニズム研究の最新の成果を取り入れながら、その再定義に向けた視点を提示した。

(3)同じく2018年5月に佐藤と吉田が Rebecca Walkowitz 教授 (Rutgers 大学、世界文学研究・翻訳研究) を招聘し、本科研メンバー全員が親しく交流した。日本英文学会第90回全国大会での特別講演のほか、慶應義塾大学、立命館大学で現代英米文学の新展開に関する講演をしてもらった。Walkowitz 教授はモダニズムと現代文学 (世界文学) の関係を新しく規定し直す *Cosmopolitan Style* (2006), *Born Translated* (2015) といった著書で知られる、本研究の趣旨にとって最も重要な海外研究者であり、彼女との交流は研究の推進にとって大きな成果であった。なお、本科研メンバー全員で *Born Translated* の日本語訳を進めているところである。翻訳が公刊されれば、世界文学論の新しい視座を提供するものとして国内でインパクトを与えるであろう。

(4)2017年7月に吉田と佐藤が、米国の大学における創作科の歴史に関する決定的に重要な著書 *The Program Era* (2009) の著者である Mark McGurl 教授 (Stanford 大学) を招聘し、慶應義塾大学等で講演をしてもらい、本科研メンバー全員が交流した。この時の交流で、本研究の重要な柱である、教育制度を通じてのモダニズムの遺産継承という主題に関して探究を深めることができた。

(5)その他、各メンバーの主な成果に関して挙げておく。代表者の田尻は、本研究の最も重要な現代作家の一人 J.M.Coetzee の研究に関して、2017年3月には世界的権威の David Attwell 教授 (York 大学)、2019年11月にはやはり世界的権威の Derek Attridge 教授 (York 大学) を招聘し、研究会を開催して交流を図り、また2019年11月にクツェー『続・世界文学論集』(みすず書房)を翻訳刊行した。また2018年9月に『カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』を読む』(水声社)を共編著として刊行した。佐藤は2018年3月に刊行した『グレアム・グリーン ある映画的人生』(慶應義塾大学出版会)で2019年に第10回表象文化論学会賞を受賞したほか、2018年には Graham Greene の国際学会で招待発表を行った。吉田は、2019年度に Rutgers 大学哲学科・英文科共同開催の翻訳ワークショップ(2日間)で招待講演を行ったほか、Oxford 大学で訪問研究者としてラウンドテーブル参加や比較文学翻訳理論研究科で発表を行った。秦は、2019年3月と8月に Texas 大学 Harry Ransom Center にて Kazuo Ishiguro の初期、中期作品草稿を研究し、同年度後半にはこの研究成果をもとに論文を執筆した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 吉田恭子	4. 巻 31.2
2. 論文標題 橋の上の語り 『ブック・オブ・ソルト』の人物造形と言葉遣い	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 147-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 秦邦生	4. 巻 13
2. 論文標題 「今」読み返すジェイン・オースティン 『ノーサンガー・アビー』と読み方のレッスンの継承	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ジェイン・オースティン研究	6. 最初と最後の頁 81-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤元状	4. 巻 1
2. 論文標題 'The Invisible Japanese Gentlemen' : Graham Greene's Literary Influence in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Graham Greene Studies	6. 最初と最後の頁 110-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤元状	4. 巻 49
2. 論文標題 まがい物のイングリッシュネス、あるいはヘリテージ映画としての『日の名残り』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 115-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤元状	4. 巻 69
2. 論文標題 風刺としての資本主義批判 『ここは戦場だ』と『自由を我等に』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要 英語英米文学	6. 最初と最後の頁 1-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計33件(うち招待講演 6件/うち国際学会 19件)

1. 発表者名 Kyoko Yoshida, Masatsugu Ono, David Karashima
2. 発表標題 Japanese Literature and Translation after Murakami: A Roundtable Discussion
3. 学会等名 Penbroke College, Oxford University
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Experimental Re:Retranslation
3. 学会等名 American Literary Translators Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Writing and Translating in the Age of Post-National Literature
3. 学会等名 Rutgers University Translation Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Special Session of the Discussion Group: Kyoko Yoshida discusses the translation and re-translation of Yoshimasu Gozo 's Alice Iris Red Horse (New Directions, 2016)
3. 学会等名 Oxford Comparative Criticism and Translation
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Creative Writing in the Era of Post-National Literatures
3. 学会等名 国際シンポジウム「近代文学の終り」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motonori Sato
2. 発表標題 Late Style Revisited: Virginia Woolf 's The Waves.
3. 学会等名 Troublesome Modernisms. British Association for Modernist Studies International Conference 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motonori Sato
2. 発表標題 Virginia Woolf and the Cinematic Present.
3. 学会等名 The Second Annual International Conference of the Modernist Studies in Asia Network. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motonori Sato
2. 発表標題 Unending Modern Literature: The Resurgence of Modernism in the Contemporary Anglo-American Literary Criticism.
3. 学会等名 国際シンポジウム「近代文学の終り」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kunio Shin
2. 発表標題 Utopia's Inhuman Temporality: H. G. Well's The Shape of Things to Come and Its Film Adaptation
3. 学会等名 The Second Annual International Conference of the Modernist Studies in Asia Network. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiki Tajiri
2. 発表標題 Virginia Woolf's Existential Concern with Non-Human Space
3. 学会等名 The Second Annual International Conference of the Modernist Studies in Asia Network. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiki Tajiri
2. 発表標題 Virginia Woolf and the Cinematic Perception
3. 学会等名 Technically Yours, International Conference at National Taiwan University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiki Tajiri
2. 発表標題 The Questions of Modernism in Karatani's 'The End of Modern Literature'
3. 学会等名 国際シンポジウム「近代文学の終り」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiki Tajiri
2. 発表標題 Art or Utilitarian Activities: Ishiguro's Decision in an Early Plan for Never Let Me Go
3. 学会等名 Twenty-First Century Perspectives on Kazuo Ishiguro (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秦邦生
2. 発表標題 機械のユートピアと機械のコメディ Wyndham LewisとCharlie Chaplinにおける「不気味」な身体
3. 学会等名 日本英文学会第90回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秦邦生
2. 発表標題 「今」読み返すジェイン・オースティン
3. 学会等名 日本ジェイン・オースティン協会第12回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 アナクロニスティック・モダニズムとしてのノワール小説
3. 学会等名 日本英文学会第90回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 Cold War & Creatvie Writing
3. 学会等名 日本アメリカ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 海を渡る料理人、厨房を旅する革命家 The Book of Saltのインドシナ人
3. 学会等名 世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田尻芳樹
2. 発表標題 Virginia Woolfと小津安二郎
3. 学会等名 日本英文学会第90回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshiki Tajiri
2. 発表標題 The Question of Secrecy in J. M. Coetzee 's In the Heart of the Country
3. 学会等名 Two-day International Seminar: 'Secrecy and Community in Contemporary Narrative in English (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motonori Sato
2. 発表標題 Ishiguro Meets Ozu
3. 学会等名 Cross-Lingual Writing in an Age of World Literature: A Symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤元状
2. 発表標題 Greene、映画に行く
3. 学会等名 日本英文学会第90回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motonori Sato
2. 発表標題 The Nostalgia Novel: Appropriation of Japanese Cinema in Kazuo Ishiguro 's A Pale View of Hills
3. 学会等名 Nostalgia in Contemporary Culture (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motonori Sato
2. 発表標題 Graham Greene and the End of Modernist Empathy
3. 学会等名 Modernism and Empathy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motonori Sato
2. 発表標題 The Legacy of Graham Greene's First-person Narration
3. 学会等名 20th Graham Greene International Festival 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤元状
2. 発表標題 アプロプリエーション・アートとしての現代小説 村上春樹『アフターダーク』を読む
3. 学会等名 明治学院大学言語文化研究所主催シンポジウム「トランスレーション・アダプテーション・インターテクスチュアリティ 2019」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida, David Karashima, Masatsugu Ono
2. 発表標題 Is Murakami an American Writer?
3. 学会等名 The Association of Writers and Writing Programs. Oregon Convention Center (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 アメリカ文学の新学期 21世紀アメリカ小説教授法
3. 学会等名 日本アメリカ文学会関西支部
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秦邦生
2. 発表標題 The Fragility of Life": Utopia and the Legacies of
3. 学会等名 British Association for Modernist Studies 2017 International Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤元状
2. 発表標題 ワイルドが肝心 もう一つのヘリテージ映画
3. 学会等名 日本ワイルド協会第42回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田尻芳樹
2. 発表標題 Ian McEwanにおける記憶、トラウマ、日常性
3. 学会等名 日本英文学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 American Literature through Translation
3. 学会等名 American Literature Lecture at National Taiwan Normal University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 帝国野球外交の三角関係ー黒人オールスターチームの京城訪問ー」
3. 学会等名 海を渡るベースボールー民族・移民・国家のかかわりからー (招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 吉田恭子, 竹井智子, 高野泰志, 中西佳代子, 島貫香代子, 舌津智之, 杉森雅美, 森慎一郎, 伊藤聡子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 339
3. 書名 精読という迷宮 アメリカ文学のメタリーディング	

1. 著者名 立命館大学英米文学会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 218
3. 書名 英語文学の諸相 立命館大学英米文学会論集	

1. 著者名 Laura Wright, Derek Attridge, David Attwell, Paul Stewart, Jana Giles, Gillian Dooley, Teresa Pinto Coelho, Yoshiki Tajiri, Maria Lopez, Suzanna Zinato, Martina Ghosh-Schellhorn, Benjamin Kunkler, Elleke Boehmer	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 252
3. 書名 Reading Coetzee's Women	

1. 著者名 マーク・ジャーング、アン・ホワイトヘッド、ブルース・ロビンズ、マーク・カリー、ロバート・イーグルストン、田尻芳樹、三村尚央、莊中孝之、秦邦生、菅野素子、武富利亜、日吉信貴、森川慎也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 305
3. 書名 カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』を読む	

1. 著者名 佐藤元状	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶応義塾大学出版会	5. 総ページ数 366
3. 書名 グレアム・グリーン ある映画の人生	

1. 著者名 河内恵子、田尻芳樹、遠藤不比人、生駒夏美、大石和欣、板倉徹一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 312
3. 書名 現代イギリス小説の「今」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	秦 邦生 (Shin Kunio) (00459306)	青山学院大学・文学部・准教授 (32601)	
研究分担者	佐藤 元状 (Sato Motonori) (50433735)	慶應義塾大学・法学部(日吉)・教授 (32612)	
研究分担者	吉田 恭子 (Yoshida Kyoko) (90338244)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	